

内海ITU事務総局長、ジュネーブ便り（2002年1～2月）



◎内海総局長から

ご承知のとおり、スイスの名門、看板企業であるスイス航空が破産しました。破産する直前まで、だれも経営危機に瀕している企業だと思わず、信頼性の一層ある航空会社だと信じていて、私も、出張は、ほとんどスイス航空を使用していました。

原因はいろいろあるでしょうが、サベナ航空への肩入れ等、拡大経営戦略が、市場の突然の縮小に対応できず、財政的に破綻したことのようです。世の中の変化に迅速に対応できない組織がどうなるかを、まさに目の前で展開した貴重な教訓でした。

◎1～2月の事務総局長の主な動向

1月10～11日 マレーシア、シンガポール訪問

マレーシアでは、Mr. Datuk Amar Leo Moggieエネルギー通信マルチメディア大臣およびMs. Tan Sri Nuraizah通信マルチメディア委員長を訪問しました。シンガポールでは、Mr. David Lim Tik En情報通信大臣およびMr. Leong Keng Thai情報通信開発庁長官を訪問しました。旧知の方々ということもあり、アジア地域の電気通信環境の変化や、ITUの役割等について、腹を割って意見交換を行うことができました。政策・規制事項に関するITUの役割強化など、時代の変化に合わせてITUを改革していくべきとの支援をいただきました。

1月12～13日 PTC（太平洋電気通信理事会）2002（ホノルル）

例年、太平洋諸国の電気通信関連の政府高官、民間要人などが出席してPTC会合が開催されています。今年は、約1,500名が出席する盛大なものとなりました。内海事務総局長は、オープニングセレモニーにおいて、電話やインターネットの普及が進んでいない国々に需要がまだ潜在していること、安価なサービスの提供が普及を促進するなど、業界関係者のより一層の奮起を期待するスピーチを行いました。また、今年の会合では、中国はWU産業情報大臣が出席して中国企業による展示会“China Tech 2002”をPTC会議場横で開催し、韓国からはKIM情報通信副大臣が出席するなど、中国および韓国の積極的な活動が注目されました。

1月16～18日 ITU電気通信開発アドバイザリーグループ会合（TDAG、ジュネーブ）

ITU電気通信開発局の主要な活動や財政事項について議論するITU電気通信開発アドバイザリーグループを開催しました。WTDC直前のTDAGであるため、各地域でのWTDC準備会合の結果を取りまとめ、Dセクターの戦略計画、WTDCのアジェンダおよび委員会構成などを議論しました。

1月24日 世界情報社会サミット（WSIS）準備政府間会合（ジュネーブ）

ジュネーブ駐在の各国大使が出席して標記会合がITUで行われました。昨年末、国連総会でWSISを支持する決議が採択されたこともあり、前回の9月会合に比べると、各国の关心も高まり、約150名が出席する会合となりました。第1回サミット準備会合を7月1～5日に開催すること、サミット地域準備会合をマリ、ルーマニア、チリおよび日本が招聘する意思を表明していることなどサミット準備状況が紹介されました。

出席した各代表部からは、サミットまでのスケジュール、民間セクターおよび市民団体が参加する際のガイドライン、サミットの議題や予想される出力文書案などについて、今後とも積極的に関与していきたいとの意思表明がありました。今後とも、各代表部間で定期的に会合を開催し、サミットに向けた政府間の意見調整を行うことになりました。



1月25日 WSIS実施事務局調整会合（ジュネーブ）

現在、WSIS実施事務局には、各政府、民間セクター、NGOからボランティアとして20名強が集まりサミット準備に向けた作業が始まっています。7月に開催する第1回サミット準備会合への準備、サミット地域準備会合の開催国との調整を、優先して作業を進めています。また、WSISのWebサイト(<http://www.itu.int/wsisis/>)も更新しています。

WSIS実施事務局に派遣されている職員の活発な議論の様子から、事務局が機能し始めていることを確信しました。

2月2～4日 世界経済フォーラム会合および国連ICTタスクフォース会合（ニューヨーク）

今年の世界経済フォーラム会合（WEF）は、Leadership in Fragile Timesのテーマでニューヨークで開催されました。WEFは、グローバル化の光ばかりを追い求めすぎているとの批判が近年強くなっていますが、それでも世界からかなりの要人が出席しており、電気通信およびITに関連して意見交換を行いました。

また、同じ時期、国連ICTタスクフォース会合の第2回会合が開催されました。同会合は、世界の各機関で実施されているICT関連のプロジェクト間の連携を支援する会合として、国連経済社会理事会によって設置されました。WSISに対してどのように貢献していくか議論されました。ICTタスクフォースの活動成果をWSISに入力していくことで合意されました。